

白馬中退任に係る御礼及び挨拶

先週には、令和4年度卒業証書授与式が挙行され、フレンドリーで味のある卒業生が晴れやかに巣立っていきました。子どもたちが登校しない休みの日の学校は、どこか淋しく感じますが、教室には、子どもたちの温もり、余韻が残ってしまいます。

さて、令和4年度末人事にかかわり、転退職員についてすでに学校だよりでお知らせしたところですが、私、校長の浅原昭久は、白馬中学校に4年間お世話になり、37年間の教員生活の区切りとして定年退職を迎えました。この4年間、保護者の皆様、地域の皆様にお支えいただきましたこと、心から感謝申し上げます。



白馬中在任中の4年間のうち3年間はコロナと共にありました。令和元年度3月。いきなり学校が休校になってしまった無力感。悔しさ。忘れることができません。それがエネルギーとなり、「子どもたちの学びを止めない！」決意の下、令和2年度4月、白馬中学校職員と地域の方々、教育委員会が一丸となって、オンライン授業を10日で成し遂げました。歯を食いしばって頑張ったことは今となっては懐かしい思い出です。

その他、SDGsサークルの発足。ペーパーレスの推進。学校教育目標の変更。2学期制への変更。ジェンダーレス制服への変更。校則変更とスーパークールビズの 신설。登校時間の変更。岩岳民宿の宿泊学習への変更。唐松登山の三隊選択制に変更。日常的なタブレット活用。地域の方と白馬中トレラン、国際フォーラム、白馬未来図等の開催。ラフティングやSUP。支援を要する子への手厚い対応。自由な雰囲気为学校づくりなどなど思い出されます。

私は、初任校の上田市立第一中学校を皮切りに、東信、北信、中信、南信と小学校、中学校、養護学校、県教育委員会など長野県各地11校等に勤務し居住しても参りました。そして、それぞれの土地、学校にそれぞれのよさがあり、また、素晴らしい子どもたちとの出会いがありました。そんな中、私の教員生活最後が白馬村立白馬中学校となったわけですが、改めて感じることは、白馬は他の地域とは別格だということです。

美味しい水。清涼感のある空気。圧倒的に美しい風景、自然。そして、多様で魅力的、熱い人々。わたしは、日本の中で最も理想の未来に近いコミュニティーではないかと、本気で思っています。今流に言うと、「推し」というのか本当に白馬に惚れ込んでしまいました。

そんな白馬の地で、温かく熱心な地域の皆様に支えられながら、明るくナチュラルな子どもたちや意欲ある先生方と学校生活を送れましたことは、ただただ喜びと感ずるところです。皆さまのご健勝と白馬のご発展を心より祈念し、そして、白馬のすべてに感謝し、いつまでも白馬を愛し続けることをお誓いして、お別れの挨拶とさせていただきます。

皆さま、お世話になりました。心からありがとうございました。